

課題番号	5-2	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・県単
研究課題名	獣害対策としての森林整備手法に関する研究 〔林業被害対策資材の効果や持続性等の検討〕				
担当者名	丸山 哲也・高橋 安則		研究期間	平成 24～26 年度	

## 目 的

人工林におけるクマやシカによる樹皮剥ぎ等対策資材の効果と持続性及び、維持管理のあり方について検討するとともに、低コストな資材を用いた効果試験を行う。

## 方 法

### ①梱包ロープ（肥大成長に対応した結束手法）

- ・調査地 塩谷町西古屋地内
- ・調査開始 平成 24 年 5 月 25 日
- ・調査区 ①2 段巻き 70 本中 50 本  
②1 段巻き 70 本中 50 本  
③対照区 70 本
- ・調査状況 毎年春と秋に新規被害発生状況、資材の状況を調査  
センサーカメラにより動物の出没状況を確認



図 1. 梱包ロープ

### ②ウィリーGP（ハーフタイプ）

- ・調査地 日光市山内（2カ所）
- ・調査開始 平成 24 年 11 月 20 日
- ・調査区(1カ所あたり) ①2 段巻き 100 本中 25 本  
②2 段巻き 100 本中 50 本  
③1 段巻き 100 本中 25 本  
④1 段巻き 100 本中 50 本  
⑤対照区 100 本
- ・調査状況 毎年春と秋に新規被害発生状況、資材の状況を調査  
なお、鹿沼市でも調査を実施していたが、平成 26 年 2 月の豪雪により倒木が多数発生し、調査不能となっている。



図 2. ウィリーGP

## 結果概要

### ①梱包ロープ（肥大成長に対応した結束手法）

一部の処理木に、動物によると思われるちぎれや緩みが発生しているが、シカやクマの新規被害は発生していない。なお、平成 26(2014)年 10 月 1 日に 2 段巻区において、イノシシが資材を脱落させる様子が撮影された（図 3）。

### ②ウィリーGP（ハーフタイプ）

一部の処理木に、小動物によると思われる緩みや外れが発生している。春調査において対照区の 1 本に、クマによる根から幹への剥被害が確認された。秋の調査では 25 本 1 段巻の調査区で、資材未設置木にクマによる根部への剥被害が 1 本確認された。



図 3. イノシシによる資材の脱落

両地区とも大きな新規被害が確認されていないため、資材設置の効果判定には至っていない。今後とも調査を継続し、資材の耐久性も含めて評価を行っていく予定である。なお、動物による資材の脱落が確認されているため、資材設置後は毎年点検を行うべきと考えられた。